

■(希玄・永平)道元(承陽大師) 日本曹洞宗の開祖。坐禅を中心とする厳しい修行生活の拠点(永平寺)を開いた。

どうげん

梶原景時征討1200＝ 宇治木幡(京都)の松殿山荘で、摂政太政大臣松殿藤原基房の娘を母に、_内大臣源通親の子に生まれる。

・ ・ ・ ・ ・ 1202＝ 2歳：父を失う。

執権政治始・ 1203＝ 3歳：

専修念仏禁止1207＝ 7歳：母を失う。

・ ・ ・ ・ ・ 1209＝ 9歳：

方丈記・ ・ ・ 1212＝12歳：_養父で伯父の藤原師家が制止するのを振り切って、外叔父の良頭を比叡山麓に訪ね、その手引きで横川の首楞嚴院に赴き、般若谷の千光房に入った。

北条頼権確立1213＝13歳：_天台座主公円について剃髪し、戒壇院で菩薩戒を受けて、仏法房道元と名のり、天台宗の教学を修める。_しかし、疑問が解けず、比叡山での修行に見切りをつけて、三井寺の公胤を訪ねた。しかし、公胤もそれには答えず、中国で禅宗を学んでくるのがよいと入宋を勧めたので、

・ ・ ・ ・ ・ 1217＝17歳：_まず建仁寺に赴いて、栄西門下の明全に参じ、

・ ・ ・ ・ ・ 1218＝18歳：

源実朝暗殺・ 1219＝19歳：

承久の乱・ ・ 1221＝21歳：

1223＝23歳：_ついで明全らと入宋し、浙江省天童寺に赴いて、臨済宗大恵派の無際了派に参じる。阿育王山広利寺にも赴くなど、各種の禅体験を積む。

親鸞真宗始・ 1224＝24歳：_天童寺の無際が寂したので、

北条政子没・ 1225＝25歳：_径山に赴いて無際の法兄浙翁如口に参じた。

_そののち天台山に赴いて、万年寺の元口に参じてその嗣書を見、明州では大梅法常ゆかりの護聖寺に詣で、台州の小翠岩で大恵派の盤山思卓にまみえ、また鎮江の雁山能仁寺に赴くなど、諸寺歴訪の旅を続け、大陸禅の体験を深めたが、老僧口の勧めを思い起こし、天童寺に赴いて如浄に参じて入室問法の末、ついに大悟した。その後、如浄に学ぶこと3年、

道元曹洞宗始1227＝27歳：_帰国して、建仁寺に身を寄せた。「普勸坐禅儀」を著し、坐禅の方法や心得をひろく大衆に説き勧めたため、天台衆徒の弾圧を招くに至り、

・ ・ ・ ・ ・ 1230＝30歳：この頃、建仁寺を追われて深草の安養院に赴く。*主著「正法眼蔵」の述作を開始して、天台、真言、臨済、真宗などの諸宗に鋭い批判を浴びせ、末法思想や念仏、祈祷などを厳しく非難。

御成敗式目・ 1232＝32歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1233＝33歳：

金滅亡・ ・ ・ 1234＝34歳：_深草の観音導利院を中心に一寺を建立し、観音導利興聖宝林禅寺とする。伽藍を整備し、入門者が増加、臨済宗大恵派の人々が相ついで集団入門をとげたので、深草教団は充実し、にわかに活況を呈した。そのために、天台衆徒の圧迫が再び激しくなり、みずからの立場を守るために、「護国正法義」を著す。

・ ・ ・ ・ ・ 1236＝36歳：_僧堂を開く。

・ ・ ・ ・ ・ 1237＝37歳：_「典座教訓」を著して、深草の興聖寺教団の修行生活を厳しく規正する。

_比叡山側はそれに対する非難を朝廷に訴え、朝廷もその言い分を認めたので、道元に対する天台衆徒の弾圧はいっそう激化、

北条泰時没・ 1242＝42歳：

鎌倉大仏完成1243＝43歳：_深草の興聖寺教団に近い月輪山荘に、弁円が藤原一門の絶大な庇護を受けて東福寺を建立し、天台、真言、臨済の3宗を併置して、東福寺の教団からも大きな脅威を受けるに至ったため、門下に集団加入した越前波著寺系の大恵派の人々の働きかけと、俗弟子の波多野義重の招きを受けて、越前志比庄に下り、

九条頼嗣將軍1244＝44歳：_大仏寺を開いた。

・ ・ ・ ・ ・ 1245＝45歳：

北条時頼執権1246＝46歳：_大仏寺を永平寺と改め、法名をみずから道元から希玄に改めた。

宝治合戦・ ・ 1247＝47歳：北条時頼の招きを受けて一時鎌倉に下ったが、

・ ・ ・ ・ ・ 1248＝48歳：すぐまた越前に戻り、

引付衆設置・ 1249＝49歳：「永平寺衆寮箴規」を著す。

_やがて永平寺を懷焚に譲って、

日蓮宗始・ ・ 1253＝53歳：_高潔無比の生涯を京の宿で閉じた。